

# 評価作業マニュアルの改定に当たり検討すべき事項について（案）

## 1. 特定の取組・計画等の評価方法について

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（平成23年10月27日文科科学省国立大学法人評価委員会決定。以下、「実施要領」という。）に定める「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」の評価や、「世界的な高水準の達成や国際的な競争力の向上を目指す観点」からの評価を、具体的にどのように実施するか。

新たに実績報告書に設けた「個性の伸長に向けた取組」欄、及び、「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄に記述された取組を、具体的にどのように評価するか。

### 評価の方向性

別添1（P.8～P.11）参照

#### （1）国立大学法人評価委員会の要請への対応

##### 戦略性が高く意欲的な目標・計画等

文科科学省国立大学法人評価委員会が実施した平成23年度評価において、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」が抽出されたことから、教育研究の状況の評価においても、国立大学法人評価委員会が抽出した目標・計画等を「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」とする。

該当法人は、実績報告書において、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」の取組状況を必ず記述する。

評価者は、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」について、中期計画の段階判定において、達成状況の他に、当該計画実行のプロセスや成果の内容を踏まえつつ、積極的に評価する。計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い教育研究水準が確認できる場合は、「不十分」とは判定しない。

評価者及び法人双方の共通理解を図るため、上記の取扱いを「中期計画に係る段階判定の考え方」に明記する。

## 世界的な高水準の達成や国際的な競争力の向上

教育研究の成果について、

- ・ 国際的な視点から判断して極めて高い教育研究水準の実現が認められる場合
- ・ 第1期末と比較して、教育研究の大きな質の向上が認められる場合には、中期計画の段階判定において、「非常に優れている」と判定する。

評価者及び法人双方の共通理解を図るため、上記の取扱いを「中期計画に係る段階判定の考え方」に明記する。

## (2)「実施要項」の改定に伴う対応

### 個性の伸長に向けた取組

法人は、「個性の伸長に向けた取組」欄において、取組の内容等とともに、特に関連する中期計画の番号を必ず記述するとともに、該当する中期計画の自己分析・判定に当たり、当該計画の実施によって、どのような個性がどのように伸長したのかを必ず記述する。

評価者は、該当計画の成果が個性の伸長に大きく寄与していると判断される場合、中期計画の段階判定において、「非常に優れている」と判定する。

評価者及び法人双方の共通理解を図るため、上記の取扱いを「中期計画に係る段階判定の考え方」に明記する。

### 東日本大震災からの復旧・復興に向けた取組等

評価者は、「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄に記述された取組について、顕著な取組がみられると判断される場合に特記事項として抽出するのみとする。

「復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組」の特記事項への抽出のため、「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」に係る特記事項の抽出基準を別途作成する。

上記の評価の方向性に伴い、資料1 実績報告書作成要領 p.20 中段(2) 留意事項 1行目「及び『東日本大震災からの復旧・復興に向けた取組等』」の記述について修正予定。

## 2 . 学部・研究科等の現況分析結果の活用方法について

中期目標の達成状況評価において、学部・研究科等の現況分析結果を活用することとされているが、具体的にどのように活用するか。

### 評価の方向性

別添 2 (P.12~P.15) 参照

#### 【中期目標の達成状況評価】

法人は、中期計画の分析状況の記述においては、現況調査表の観点等の分析状況に記述した内容と特に関連がある場合のみ、関連する学部・研究科等名等を記載する。

学部・研究科等の現況分析の結果を十分に活用し、中期目標の達成状況の評価を行うために、現況分析結果の概要(学部・研究科ごとの判定結果一覧表、判断理由一覧表(抜粋)、中期計画・現況分析結果の関連整理表)を評価者に提供し、評価者は、現況分析結果の概要を中期計画の実施状況の判定の根拠資料の一つとして活用する。

原則、現況分析において、「注目すべき質の向上」として記載されたものについては、関連する中項目の特記事項として抽出し、その外にも現況分析結果に特筆すべき事項があった場合には、関連する中項目の特記事項として抽出する。

上記の手続きにより、第1期で実施した、現況分析結果と達成状況判定結果との大きな乖離があった場合に段階判定を変更する手続きは行わない。

## 3 . 研究業績の水準判定について

「重点的に取り組む領域に係る研究業績の分析」の廃止や検証アンケートにおける研究業績水準判定結果の反映方法に対する法人からの意見等を踏まえ、研究業績水準判定結果を具体的にどのように反映させるか。

また、各分野ごとの判定基準の明確化についてどのように対応するか。

### 評価の方向性

別添 3 (P.16) 参照

#### 【中期目標の達成状況評価】

研究業績水準判定組織での研究業績の水準判定結果を参考にし、中期目標の達成状況の評価を行うために、中期計画に特に関連する研究業績が記載されている場合には、当該研究業績の水準判定結果を評価者に提供し、評価者は、水準判定結果を中期計画の実施状況の判定の根拠資料の一つとして活用する。

## 【学部・研究科等の現況分析】

学部・研究科等の現況分析において、分析項目「研究成果の状況」については、第1期と同様に、研究業績水準判定組織での研究業績の水準判定結果を踏まえて判断する。研究水準判定結果をより分かりやすく示すために、分析項目「研究成果の状況」の判断理由に、原則、以下の内容を記載する。

- ・ 卓越した研究業績の具体的内容  
卓越した研究業績の「研究テーマ」の具体的内容を引用しつつ、研究成果の状況を記載
- ・ 「SS」「S」の判定結果の割合等  
各学部・研究科等の専任教員数、提出された研究業績数、専門委員による判定結果のうち「SS」「S」の割合を記載

## 4．評価結果と公表・通知事項について

より個性の伸長に寄与する評価とするためや、より改善に資する評価とするために、また、社会、法人への説明責任を果たすために、評価結果の記載内容や社会への公表事項、法人への通知事項を見直す必要がないか。

### 評価の方向性

社会や法人へより分かりやすく評価結果を示すため、評価報告書の記載内容について以下のとおり変更する。

### 【中期目標の達成状況評価】

#### 別添4 - 1 (P.17~P.27) 参照

- ・ 評価結果報告書に目次を設ける。( P.18 )
- ・ 「法人の特徴」欄を、新たに設け、法人が作成する実績報告書に記載された「法人の特徴」を転載する。法人は、実績報告書の「法人の特徴」欄に、中期目標前文である「基本的な目標」を必ず記載する。( P.19 )
- ・ 達成状況評価結果を総括する項目として「評価結果 概要」を新たに設ける。「評価結果 概要」には、判定結果の一覧表、及び、主な特記すべき点を記載する。( P.21 , )
- ・ 中期目標の3階層(「大項目」「中項目」「小項目」)について、明記する。( P.21 , P.23 )

- ・ 小項目との関連を明示するために、「特記すべき点」の冒頭に小項目の内容を記述する。( P.21 , P.23 )
- ・ 評価結果の末尾に「判定結果一覧表」を新たに付す。「判定結果一覧表」には、中期目標の内容及び判定結果、中期計画の内容及び判定結果、「特記すべき点」に取り上げられた中期計画との対応を記載する。( P.26 )

### 【学部・研究科等の現況分析】

#### 別添 4 - 2 ( P.28 ~ P.35 ) 参照

- ・ 現況分析結果を総括する項目として「学部・研究科等の教育に関する現況分析結果(概要)」を新たに設ける。「学部・研究科等の教育に関する現況分析結果(概要)」には、判定結果の一覧表、及び、注目すべき質の向上を記載する。( P.29 , )  
研究についても同様に記載
- ・ 分析項目ごとの評価結果について、「質の向上度」の判断理由を具体的に記述する。( P.32 )
- ・ 研究業績水準判定結果の概要を「研究成果の状況」の「判断理由」に記載する。( P.34 )

## 5 . 大学ポートレート ( 仮称 ) の活用方法について

より効率的に評価を実施するために、大学ポートレート ( 仮称 ) を具体的にどのように活用するか。

### 評価の方向性

#### 別添 5 ( P.36 ~ P.37 ) 参照

第 1 期と同様に「データ分析集」及び「入力データ集」を評価者に提供し、評価者は、これらを中期計画の実施状況や教育研究の現況分析の判定の根拠資料の一つとして活用する。

「データ分析集」について、新たに経年推移の分析を追加し、評価への活用に資する。大学ポートレート(仮称)の活用方法を分かりやすく示すため、以下の内容を「評価作業マニュアル」に記載する。

- ・ 評価者に対し、基礎資料として「データ分析集」及び「入力データ集」を提供する。
- ・ 「データ分析集」は「学系内での各学部・研究科等の状況を示した資料」と「各学部・研究科等における 7 年間の経年変化を示した資料」の 2 種類である。

- ・ 「入力データ集」は「各学部・研究科等の状況についての入力データを示した資料」である
- ・ 評価者は「データ分析集」及び「入力データ集」等を参考に評価する。

## 6 . 認証評価結果の活用方法について

より効率的に評価を実施するために、認証評価結果や提出資料・データ等を具体的にどのように活用するか。

### 評価の方向性

#### 別添 6 (P.38 ~P.39) 参照

法人が根拠となる資料・データとして認証評価の評価結果等を示した場合は、該当箇所を評価者に提供する。

法人が根拠となる資料・データとして認証評価の評価結果等を示していない場合においても、直近の機関別認証評価の評価結果の概要を評価者に提供し、評価者は、機関別認証評価の評価結果の概要を中期目標の達成状況評価の資料の一つとして活用する。

また、機関別認証評価の評価結果で指摘事項がある場合は、必要に応じて、その対応状況等について、提出資料として依頼し、それらを参考に評価を実施する。

## 7 . 質の向上度の評価方法について

質の向上度の評価について、期末間の状況の比較方法、提出がなかった場合の対応、注目すべき質の向上の指摘基準等について、具体的にどのように対応するか。

### 評価の方向性

#### 別添 7 (P.40) 参照

評価者は、現況調査表の重要な質の変化についての記載（「該当なし」の場合あり）、第 2 期の水準判定についての記載、大学ポートレート（仮称）に登録されているデータに基づいて、質の向上度について判断する。

そのうえで、第 1 期と第 2 期の現況分析の水準判定結果を比較し、比較結果を参考として、総合的に質の向上度について判定する。

なお、第 1 期と第 2 期の現況分析の水準判定結果の比較については、第 1 期の水準判定結果のみを評価者に提供する。

注目すべき質の向上の指摘について、評価者は原則、質の向上度について「大きく改善、向上している 又は 高い質を維持している」と判定した場合に注目すべき質の向上の指摘を行う。

ただし、評価者は、質の向上度について「大きく改善、向上している 又は 高い質を維持している」と判定した場合以外にも、評価者の判断によって、注目すべき質の向上について指摘することができる。

---

以下の事項については、今後、国立大学教育研究評価委員会において方向性を検討する予定です。

## 8．中期計画の段階判定区分の判定基準、特記事項の抽出基準について

中期計画の段階判定区分の判定基準、特記事項の抽出基準について、具体的にどのように対応するか。

## 9．積み上げ方式の計算方法について

積み上げ方式の計算方法について、具体的にどのように設定するか。

## 10．ヒアリング等の手続きについて

ヒアリング、確認事項の問い合わせ、追加資料の提出の手続きについて、具体的にどのように対応するか。

## 11．評価実施体制について

効率的に評価を実施するために、評価実施体制について見直す必要があるか。

## 戦略性が高く意欲的な目標・計画等の達成状況報告書記述例

### 【事例1】

中期計画 X-X-X-X 「国際化を一層推進するため、質の確保に留意しつつ、全学生数に対する外国人留学生の比率を20%以上とする。」に係る状況

(実施状況) 国際化に向けて、英語のみによる学位取得が可能なコースを〇〇学部、△△学部、～～計20コース設置し、これらのコースにより6年間で延べ外国人留学生〇名、日本人学生〇名が学位を取得した。また、新たに〇〇地区に外国人学生宿舎を整備し、～～実施するなど、受入体制も充実させた。さらに、海外で留学説明会を～～実施し、また、海外で入学試験を～～実施するなど、積極的に外国人留学生の受入促進に向けて取り組んだ。その結果、全学生数に対する外国人留学生の比率が5%（平成21年度）から18%（平成27年度）となった。

(判定) 「実施状況が良好である」

(判断理由) 様々な外国人留学生受入促進・支援に係る取組を実施した結果、外国人留学生受入の比率が5%から18%と大きく増加した。この数値は当初目標とした数値にはわずかに及ばないものの、この増加率は全国の外国人留学生の増加率(〇%)を大きく上回っている。したがって、中期計画を概ね達成し、優れた成果が上がっているため、達成状況は良好であると判断する。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」の取組状況を必ず記述

計画どおり実施できていない場合、教育研究の質の向上や高い教育研究水準の実現の状況を踏まえて判断理由を記述

### 【事例2】

中期計画 Y-Y-Y-Y 「文系・理系の各分野間の連携・融合を図りながら、社会的要請の高い「〇〇〇〇〇〇」に関して、研究教育拠点の形成を目指し、プロジェクト研究を推進する。」に係る状況

(実施状況) 生命科学、心理学、〇〇〇学、△△△学、□□□学、×××学、▽▽▽学、◇◇◇学等の各分野で実績を挙げてきた経験を結合し、分野横断的視点に立って「〇〇〇〇〇〇」のメカニズムを解明しようとするプロジェクト研究「△△△△△△」を平成〇年度から開始した。平成〇年度にはグローバルCOEプログラムに採択され、平成〇年度に～～～～～～～～の成果を含む複数の研究論文が国際的学術誌「××××××」、「▽▽▽▽▽▽」に掲載され、それぞれ～～～～～～～～の点が高く評価されている。

(判定) 「実施状況が良好である」

(判断理由) 当該研究テーマは国際的にも高く注目されており、当該研究において最先端の研究を推進している欧米の研究機関(〇〇〇〇、△△△△、□□□□)においても同様の研究プロジェクトが進められている。プロジェクトが開始されて、数年しか経過していないために、新たな研究教育拠点の形成に向けた十分な成果を挙げるまでには至っていないが、外部資金の獲得につながるとともに、複数の研究論文を発表し、それぞれ国際的に非常に高く評価されている。したがって、計画どおり実施できてはいないが、高い教育研究水準を実現し、優れた成果が上がっているため、実施状況は良好であると判断する。



# 個性の伸長に向けた取組、東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等の達成状況報告書記述例

## 達成状況報告書

中期目標に記載している大学の基本的な目標を補完する観点から法人の特徴や特色を記述

### I 法人の特徴

本学は〜〜〜として発足し、〜〜〜を擁する総合大学である。

建学以来〜〜〜の歴史と実績を重ねており、世界に通ずる高度な専門職業人を育成し、我が国の学術及び社会・経済・文化の発展に大きく貢献している。

また、国際性を備えた高度専門職業人教育をいっそう推進するため、〜〜〜分野の組織の再編・統合を行い、〜〜〜を設置し、〜〜〜に重点的に取り組んでいる。

さらに、グローバル化する知識基盤社会発展のため、〜〜を〜〜へ再編し、〜〜を推進している。

・  
・  
・

中期目標に記載した「大学の基本的な目標」や上記「法人の特徴」を踏まえ、自らが考える法人の個性の伸長に向けた主体的な取組の概要を記述

### 【個性の伸長に向けた取組】

○ 企業家精神を備えた高度な専門知識を有する職業人を育成するため、少人数教育を重視した授業科目を充実させている。さらに、企業等と連携したインターンシップや実務家と担当教員一体となった実践的教育科目も多数配置するなど、特色のある教育プログラムを展開している。

(関連する中期計画) 計画番号 X-X-X-X、X-Y-Y-Y

○ グローバル化に対応した人材を育成するため、2週間～3カ月の短期での海外交流プログラムを充実させている。これらのプログラムは、語学研修プログラム、異文化交流プログラム、専門分野の集中プログラム、海外インターンシッププログラムと多岐にわたっており、プログラム修了状況による単位認定基準を整備し、積極的な受講を促している。

(関連する中期計画) 計画番号 Z-Z-Z-Z

○ ~~~~~

・  
・

末尾に関連する中期計画番号を記載

東日本大震災からの復旧・復興への貢献・支援活動等の内容を記述

### 【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】

○ 東日本大震災からの復旧・復興へ全学的に取り組むための「〇〇〇プログラム」を策定し、〜〜〜するなど、教育研究知見を活かした組織的取組を展開するとともに、△△△機構と〜〜〜に関する共同調査を実施し、〜〜〜を重点的に〜〜〜することにより、〜〜〜を活用した地域再生計画と地域循環型の新エネルギー政策を提案している。

○ 東日本大震災からの復旧・復興へ向け、大学独自に募った学生ボランティアを派遣するだけでなく、地域のNPOとの連絡会議を設け、~~~~~等の活動を通じて学生のより主体的な活動を促進し、地域における災害ボランティア活動の活性化を図っている。

・

中期計画番号の記載は不要

## Ⅱ 中期目標ごとの自己評価

### 1 教育に関する目標(大項目)

#### (1) 中項目1「・・・・・・・・」の達成状況分析

##### ○小項目1「・・・・・・・・」の分析

##### 関連する中期計画の分析

中期計画 X-X-A-A 「~~~~~」に係る状況

・  
・  
・

「個性の伸長に向けた取組」欄の記載と関連付けて記号を付す

中期計画 X-X-X-X 「企業との連携により「~~」等の実践的教育科目を充実させる」に係る状況【★】

(実施状況) 平成○年度に、▽▽学部・◇◇研究科において新たに「~~~」「~~~」等の授業科目を配置し、すでに高度な専門職業人の育成として評価を得ている~~~分野の更なる展開に取り組むことにより、同学部・同研究科の総授業科目数に占める実践的教育科目の割合を平成21年度比20%増させた(別添資料 X-X-1, p1)。同学部の就職先関係者への調査結果は~~~であり、~~~の分析において、高度専門職業人養成に関連するスコアを平成21年度比30%増させており(別添資料 X-X-2, p2)、本学の機能に応じた質の高い実践的教育を提供している。また、授業科目「~~~」においては、企業勤務経験を有する実務家教員を~~名配置し(別添資料 X-X-3, p3)、~~~と連携した~~~を推進することにより~~~を強化・拡充しており、企業家精神を備えた高度専門職業人の育成という本学の個性の伸長に大きく寄与している。

(判定) 「実施状況が良好である」

(判断理由) 世界で活躍できる高度な専門職業人材の育成のため、新たに「~~~」等の授業科目を配置し、産業界と連携した特色ある実践的教育プログラムを展開・充実させ、~~~といった優れた成果をあげていることから、実施状況が良好であると判断する。

・  
・  
・  
・

関連する中期計画の分析・判定の記述箇所に実施状況や成果のほかにも、計画の実施により個性の伸長に寄与した状況を併せて記述

「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄に記載した取組と関連がある場合にも、関連付けの記号は付さない

中期計画 Z-Z-X-X 「本学の持つ教育研究の知見を活かした、新たな地域再生政策、防災対策、エネルギー政策等を提言・実施する」に係る状況

(実施状況) 東日本大震災からの復旧・復興へ全学的に取り組むための「○○○プログラム」を策定し、~~~~~するなど、教育研究知見を活かした組織的取組を展開している。また、△△△機構と~~~~~に関する共同調査を実施し、~~~~~を重点的に~~~~~することにより、~~~~~を活用した地域再生計画と地域循環型の新エネルギー政策を提案し、~~~の各自治体と連携した~~~~~を実現するなどの成果をあげている。

(判定) ~~~~~

(判断理由) ~~~~~。

・

## 第2期中期目標期間の中期計画に係る段階判定の考え方

判定	左記と判断する基準
非常に優れている 【新設】	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、 <b>得られた成果が特筆すべきもの*</b> である  ※「特筆すべき成果」とは、以下のいずれかまたは複数に該当する場合を指す <b>① 教育研究の大きな質の向上</b> <b>② 国際的な視点から判断して極めて高い教育研究水準の実現</b> <b>③ 個性の伸長への大きな寄与</b>
良好	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が優れている
おおむね良好 【標準】	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が相応である
不十分	○次のいずれかに該当する場合 1. 計画の実施状況が不十分である 2. 計画は実施されているが、得られた成果が不十分である

### 【留意事項】

判断に当たり、戦略性が高く意欲的な計画については、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い教育研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定を行う。

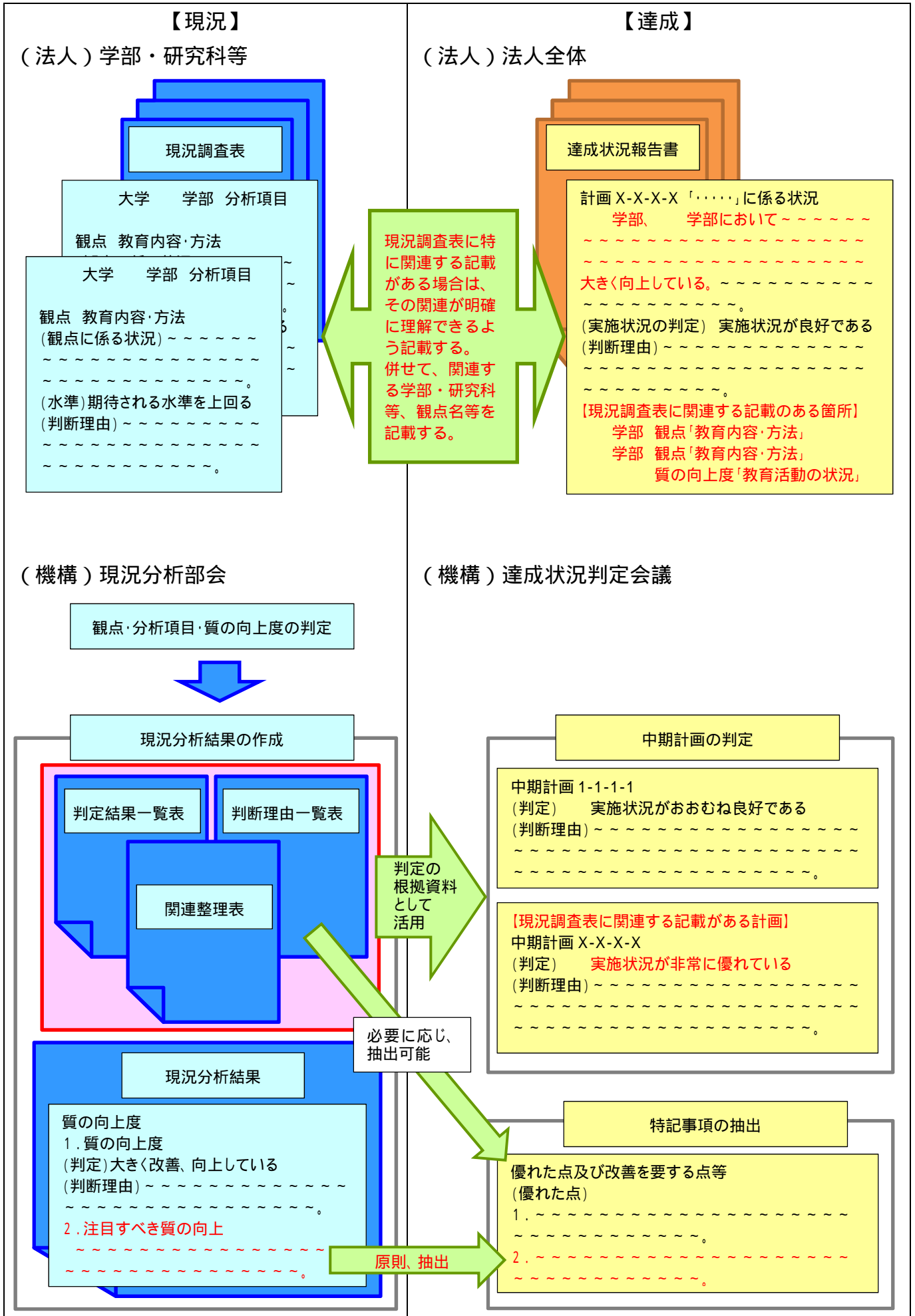
(参考)

### 第1期中期目標期間の中期計画に係る段階判定の考え方

判定	左記と判断する基準
良好	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が優れている
おおむね良好 【標準】	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が相応である
不十分	○次のいずれかに該当する場合 1. 計画の実施状況が不十分である 2. 計画は実施されているが、得られた成果が不十分である

※ 第1期は3段階判定。留意事項は設けていない。

# 現況分析結果の活用方法イメージ図



# 現況分析結果 判定結果一覧表

## 大学

学部・研究科等	教育						研究				学系	
	教育活動			教育成果			研究活動		研究成果			
	実施体制	内容・方法	質の向上度	学業の成果	進路・就職	質の向上度	研究活動	共同利用・共同研究	質の向上度	研究成果		質の向上度
学部	3		3	3		3					人文系	
	2	3		3	2							
学部	4		4	3		3					社会系	
	3	3		3	2							
学部	2		2	2		2					理学系	
	2	2		2	2							
××学部	2		2	2		2					教育系	
	2	2		2	2							
学部	2		3	1		1					工学系	
	2	2		1	2							
学部・研究科							2		2	2	2	人文系
							2			2		
学部・研究科							2		2	2	2	社会系
							2			2		
××学部・××研究科							2		2	2	2	教育系
							2			2		
研究科							3		3	4	4	総理系
							3			3		
研究センター							2		3	3	3	総融系
							2			2		

観点「期待される水準を上回る」、分析項目「期待される水準を大きく上回る」  
質の向上度「大きく改善、向上している 又は 高い質を維持している」

観点「期待される水準を下回る」、分析項目「期待される水準を下回る」  
質の向上度「質を維持しているとはいえない」

(観点・分析項目)

「期待される水準を大きく上回る」 4  
 「期待される水準を上回る」 3  
 「期待される水準にある」 2  
 「期待される水準を下回る」 1

(質の向上度)

「大きく改善、向上している  
又は 高い質を維持している」 4  
 「改善、向上している」 3  
 「質を維持している」 2  
 「質を維持しているとはいえない」 1

## 現況分析結果 判断理由一覧表(抜粋)

〇〇大学

学部・研究科等	教育研究	項目	判定	判断理由
〇〇学部	教育	【観点1-2】 教育内容・方法	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
	教育	【観点2-1】 学業の成果	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
△△学部	教育	【観点1-1】 教育実施体制	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
	教育	【観点1-2】 教育内容・方法	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
	教育	【分析項目Ⅰ】 教育活動の状況	4	~~~~~において特筆すべき成果であり、~~~~~ことから、期待される水準を大きく上回ると判断される。
	教育	【質の向上度】 教育活動の状況	4	~~~~~の点で、大きく改善、向上していると判断される。
	教育	【観点2-1】 学業の成果	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
◎◎学部	教育	【観点2-1】 学業の成果	1	~~~~~期待される水準にあるとはいえないことから、期待される水準を下回ると判断される。
	教育	【分析項目Ⅱ】 教育成果の状況	1	~~~~~期待される水準にあるとはいえないことから、期待される水準を下回ると判断される。
	教育	【質の向上度】 教育成果の状況	1	~~~~~の点で、質を維持しているとはいえないと判断される。
▽▽研究科	研究	【観点1-1】 研究活動の状況	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
	研究	【観点2-1】 研究成果の状況	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
	研究	【分析項目Ⅱ】 研究成果の状況	4	~~~~~において特筆すべき成果であり、~~~~~ことから、期待される水準を大きく上回ると判断される。
	研究	【質の向上度】 研究成果の状況	4	~~~~~の点で、大きく改善、向上していると判断される。
◇◇研究センター	研究	【観点2-1】 研究成果の状況	3	~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。

  観点「期待される水準を上回る」、分析項目「期待される水準を大きく上回る」  
質の向上度「大きく改善、向上している 又は 高い質を維持している」

  観点「期待される水準を下回る」、分析項目「期待される水準を下回る」  
質の向上度「質を維持しているとはいえない」

## 中期計画・現況分析結果 関連整理表

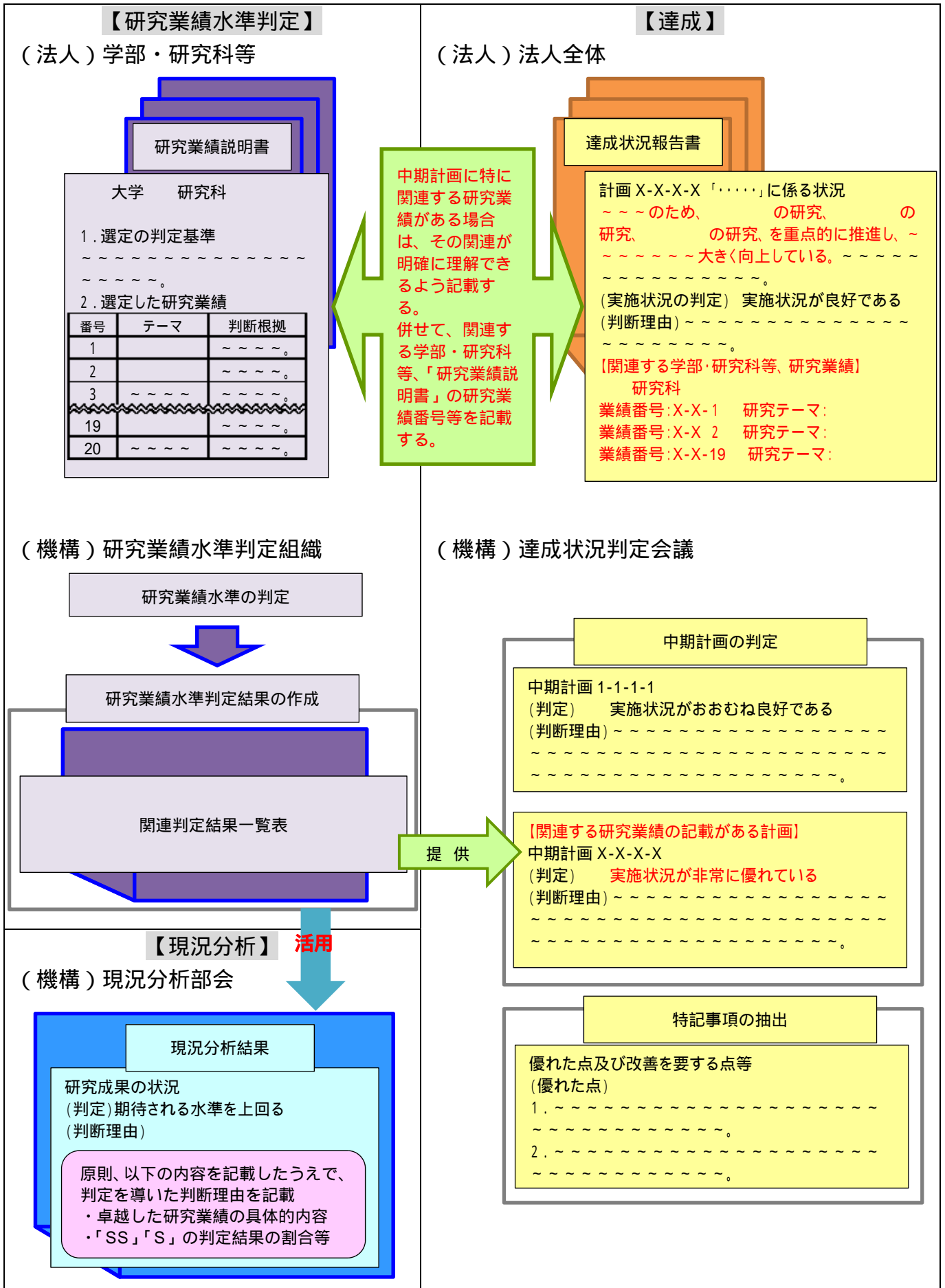
〇〇大学

中期計画	学部・研究科等	教育研究	項目	判定	判断理由
X-X-X-X	〇〇学部	教育	【観点1-2】 教育内容・方法	3	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
	△△学部	教育	【観点1-2】 教育内容・方法	3	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
		教育	【質の向上度】 教育活動の状況	4	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~の点で、大きく改善、向上していると判断される。
Y-Y-Y-Y	□□学部	教育	【観点2-1】 学業の成果	2	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ことから、期待される水準にあると判断される。
	××学部	教育	【観点2-1】 学業の成果	2	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ことから、期待される水準にあると判断される。
Z-Z-Z-Z	▽▽研究科	研究	【観点2-1】 研究成果の状況	3	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
		研究	【質の向上度】 研究成果の状況	4	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~の点で、大きく改善、向上していると判断される。
	◇◇研究センター	研究	【観点2-1】 研究成果の状況	3	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ことから、期待される水準を上回ると判断される。
		研究	【質の向上度】 研究成果の状況	3	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~の点で、改善、向上していると判断される。

観点「期待される水準を上回る」、分析項目「期待される水準を大きく上回る」  
 質の向上度「大きく改善、向上している 又は 高い質を維持している」

観点「期待される水準を下回る」、分析項目「期待される水準を下回る」  
 質の向上度「質を維持しているとはいえない」

## 研究業績水準判定結果の反映方法イメージ図





第2期中期目標期間評価における改善イメージ

第2期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

大学

平成29年 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

目次を追加

## 目次

法人の特徴	.....	1
評価結果 概要	.....	
本文	.....	
判定結果一覧表	.....	

項目「法人の特徴」を追加

**法人の特徴**

対象法人から提出された実績報告書の「法人の特徴」欄から原文のまま転載する旨を明記

大学から提出された実績報告書から転載。

対象法人から提出された実績報告書の「法人の特徴」欄から原文のまま転載

**大学の基本的な目標（中期目標前文）**

対象法人は実績報告書の当該欄に必ず記載

対象法人は実績報告書の当該欄に「大学の基本的な目標（中期目標前文）」を補完する観点からの特徴や特色を記載



項目「評価結果 概要」を追加

**評価結果  
概要**

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

大項目・中項目の判定を記載

中項目の判定の根拠である小項目の判定数を記載

中期目標（大項目） 中期目標（中項目）	判定	中期目標（小項目）の段階判定の区分別判定数			
		非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である
( ) 教育に関する目標					
教育内容及び教育の成果等に関する目標					
教育の実施体制等に関する目標					
学生への支援に関する目標					
( ) 研究に関する目標					
研究水準及び研究の成果等に関する目標					
研究実施体制等に関する目標					
( ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標					
社会との連携や社会貢献に関する目標					
国際化に関する目標					

大項目ごとに、上記の小項目の判定区分「非常に優れている」「不十分である」判定の基礎となる中期計画の判定から導出される特記事項を、「評価結果 本文」から抽出し転載

<主な特記すべき点>

( ) 教育に関する目標（大項目）  
（優れた点）

中期目標の階層（「大項目」「中項目」「小項目」）区分を明記

中期目標（小項目）「.....」について、.....  
.....  
.....優れていると判断される。

中期計画ごとの「優れた点」等について、どの中期目標（小項目）を達成する上での「優れた点」等であるかが明確になるよう中期目標（小項目）の内容を文頭に記述。

**(改善を要する点)**

中期目標(小項目)「.....」について、.....  
.....  
.....改善することが望まれる。

- 
- 
- 

**( ) 研究に関する目標(大項目)**

- 
- 
- 

**( ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標(大項目)**

- 
- 
-

項目「評価結果 本文」を追加

(内容は第1期の評価結果に相当)

本文

( ) 教育に関する目標 (大項目)

中期目標の3階層(「大項目」「中項目」「小項目」)区分を明記

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が \_\_\_\_\_ である  
(判断理由)「教育に関する目標」に係る中期目標( 項目)のすべてが「 \_\_\_\_\_ 」  
であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

教育内容及び教育の成果等に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標の達成状況が \_\_\_\_\_ である  
(判断理由)「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標( 項目)のうち、 項目が「 \_\_\_\_\_ 」、 項目が「 \_\_\_\_\_ 」  
であることから判断した。

< 特記すべき点 >  
(優れた点)

中期計画ごとの「優れた点」等について、どの中期目標(小項目)を達成する上での「優れた点」等であるかが明確になるよう中期目標(小項目)の内容を文頭に記述。

中期目標(小項目)「.....」について、.....  
.....  
.....優れていると判断される。(中期計画 - - - )

(改善を要する点)

中期目標(小項目)「.....」について、.....  
.....  
.....改善することが望まれる。(中期計画 - - - )

(特色ある点)

中期目標(小項目)「.....」について、.....  
.....  
.....特色ある取組であると判断される。(中期計画 - - - )

教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標の達成状況が \_\_\_\_\_ である  
(判断理由)「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標( 項目)のすべてが「 \_\_\_\_\_ 」であることから判断した。

<特記すべき点>

・  
・  
・

学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成状況が\_\_\_\_\_である

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（項目）のすべてが「\_\_\_\_\_」であることから判断した。

（ ）研究に関する目標（大項目）

1．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が\_\_\_\_\_である

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（項目）のうち、項目が「\_\_\_\_\_」、項目が「\_\_\_\_\_」であることから判断した。

2．各中期目標の達成状況

研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成状況が\_\_\_\_\_である

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（項目）のすべてが「\_\_\_\_\_○」であることから判断した。

<特記すべき点>

・  
・  
・

研究実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成状況が\_\_\_\_\_である

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（項目）のうち、項目が「\_\_\_\_\_」、項目が「\_\_\_\_\_」であることから判断した。

<特記すべき点>



- 
- 
- 

**( ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標（大項目）**

**1. 評価結果及び判断理由**

**【評価結果】** 中期目標の達成状況が \_\_\_\_\_ である

(判断理由) 「社会連携・社会貢献、国際化に関する目標」に係る中期目標( 項目 )  
のすべてが「 \_\_\_\_\_ 」であることから判断した。

**2. 各中期目標の達成状況**

**社会との連携や社会貢献に関する目標（中項目）**

**【評価結果】** 中期目標の達成状況が \_\_\_\_\_ である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な  
な目標( 項目 )のうち、 項目が「 \_\_\_\_\_ 」、 項目が「 \_\_\_\_\_ 」  
であることから判断した。

**< 特記すべき点 >**

- 
- 
- 

**国際化に関する目標（中項目）**

**【評価結果】** 中期目標の達成状況が \_\_\_\_\_ である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標( 項目 )  
のすべてが「 \_\_\_\_\_ 」であることから判断した。

**< 特記すべき点 >**

- 
- 
-

判定結果一覧表

中期目標または中期計画の判定を記載

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
<b>( ) 教育に関する目標</b>			
教育内容及び教育の成果等に関する目標			
.....			
1-1-1-1	.....		
1-1-1-2	.....		
	.....		
	.....		
1-1-2-1	.....		
1-1-2-2	.....		
	.....		
	.....		
教育の実施体制等に関する目標			
.....			
1-2-1-1	.....		
1-2-1-2	.....		
	.....		
	.....		
学生への支援に関する目標			
.....			
1-3-1-1	.....		
1-3-1-2	.....		
	.....		
	.....		
<b>( ) 研究に関する目標</b>			
研究水準及び研究の成果等に関する目標			
.....			
2-1-1-1	.....		
2-1-1-2	.....		

「特記すべき点」に取り上げられた中期計画について、その項目名（「優れた点」等）を記載

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	⋮		
	⋮		
研究実施体制等に関する目標			
⋮			
2-2-1-1	⋮		↓
2-2-1-2	⋮		
	⋮		
⋮			
<b>( ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標</b>			
社会との連携や社会貢献に関する目標			
⋮			
3-1-1-1	⋮		
3-1-1-2	⋮		
	⋮		
⋮			
国際化に関する目標			
⋮			
3-2-1-1	⋮		
3-2-1-2	⋮		
	⋮		
⋮			

## 第2期中期目標期間評価における改善イメージ

## 学部・研究科等の現況分析結果

<u>学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）</u>		教育 0-1
1.	学部	教育 1-1
2.	研究科	教育 2-1
3.	学部	教育 3-1
4.	研究科	教育 4-1
5.	法学部	教育 5-1
6.	研究科	教育 6-1
7.	学部	教育 7-1
8.	研究科	教育 8-1

現況分析結果の「概要」を追加

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
学部			
研究科			
学部			
研究科			
学部			
研究科			
学部			
研究科			

学部・研究科ごとに、分析項目、質の向上度の判定結果を記載

注目すべき質の向上

（ 学部 ）

.....  
.....  
.....

（ 学部 ）

.....  
.....  
.....

（ 研究科 ）

.....  
.....  
.....

学部・研究科ごとに「注目すべき質の向上」に記載された内容を転載

「研究」についても上記と同様に、「現況分析結果（概要）」について記載する。

**教育**

**学部**

教育の水準 ..... 教育 1-2

質の向上度 ..... 教育 1-

# Ⅰ 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

## 1. 教育活動の状況

[ 判定 ]

期待される水準 \_\_\_\_\_

分析項目の判定の判断理由として、観点ごとに、判定の根拠となった実施状況や成果等と、観点の判定を記述

[ 判断理由 ]

観点

「教育実施体制」については、~~~~~

~~~~~

~~~~~ことから、期待される水準と判断される。

「教育内容・方法」については、~~~~~

~~~~~

~~~~~ことから、期待される水準と判断される。

観点の判定

以上の点について、 学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育活動の状況は、 学部が想定している関係者の「期待される水準」と判断される。

## 2. 教育成果の状況

[ 判定 ]

期待される水準 \_\_\_\_\_

[ 判断理由 ]

「学業の成果」については、~~~~~

~~~~~

~~~~~ことから、期待される水準と判断される。

「進路・就職の状況」については、~~~~~

~~~~~

~~~~~ことから、期待される水準と判断される。

以上の点について、 学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、（特に、

~~~~~

~~~~~ことから、）教育成果の状況は、 学部が想定している関係者の「期待される水準」と判断される。

分析項目の判定が「大きく上回る」  
の場合には、その理由を記述





**研究**

**学部・研究科**

研究の水準 ..... 研究 1-2

質の向上度 ..... 研究 1-

# Ⅰ 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

## 1. 研究活動の状況

[ 判定 ]

期待される水準 \_\_\_\_\_

分析項目の判定の判断理由として、観点の判定の根拠となった実施状況や成果等と、観点の判定を記述

[ 判断理由 ]

「研究活動の状況」については、 ~ ~ ~ ~ ~

観点

観点の判定

~ ~ ~ ~ ~ことから、期待される水準 \_\_\_\_\_ と判断される。

以上の点について、 学部・ 研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、 学部・ 学研究科が想定している関係者の「期待される水準 \_\_\_\_\_ 」と判断される。

## 2. 研究成果の状況

[ 判定 ]

期待される水準 \_\_\_\_\_

観点の判定の根拠となった、実施状況や成果等を、学術面及び社会、経済、文化面ごとに記述

[ 判断理由 ]

「研究成果の状況」については、学術面では、 ~ ~ ~ ~ ~ であり、

観点

観点の判定

社会、経済、文化面では、 ~ ~ ~ ~ ~

~ ~ ~ ~ ~ことから、期待される水準 \_\_\_\_\_ と判断される。

なお、 学部・ 研究科の専任教員数は 人であり、提出された研究業績数は 件であった。

学術面では、 件の研究業績が提出され、研究業績水準判定組織の専門委員が各研究業績の水準を判定（延べ 件）した結果、判定結果の 割が「SS」、 割が「S」であった。

社会、経済、文化面では、 件の研究業績が提出され、研究業績水準判定組織の専門委員が各研究業績の水準を判定（延べ 件）した結果、判定結果の 割が「SS」、 割が「S」であった。

以上の点について、 学部・ 研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、 学部・ 研究科が想定している関係者の「期待される水準 \_\_\_\_\_ 」と判断される。

研究業績水準判定結果の概要（提出された研究業績数、「SS」「S」と判定された割合）を、学術面及び社会、経済、文化面ごとに記載。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

[ 判定 ]

---

[ 判断理由 ]

研究の活動について、~~~~~。  
~~~~~。  
~~~~~。

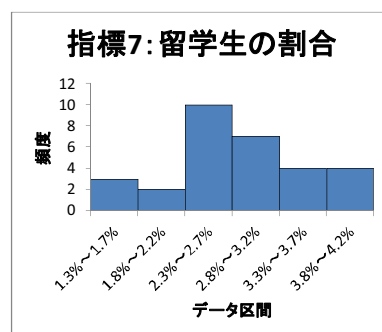
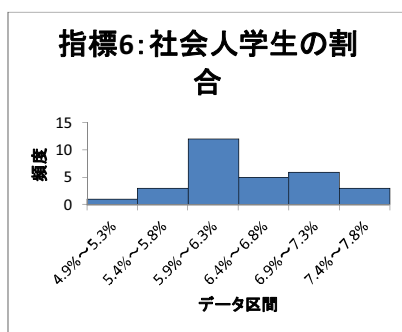
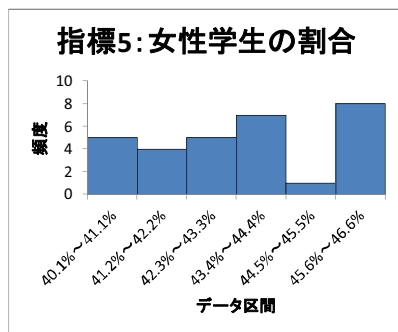
研究の成果について、~~~~~。  
~~~~~。  
~~~~~。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究の水準の結果も勘案して、総合的に判断した結果、「~~~~~」と判断される。

# データ分析集イメージ

## 1. 学生入学・在籍状況データ

|      |      |
|------|------|
| 学系   | あ学系  |
| 課程区分 | 学士課程 |



| 指標番号 | データベースから把握できるデータ・指標 | 指標の計算式                |
|------|---------------------|-----------------------|
| 指標5  | 女性学生の割合             | 女性学生数(前年度)/全学生数(前年度)  |
| 指標6  | 社会人学生の割合            | 社会人学生数(前年度)/全学生数(前年度) |
| 指標7  | 留学生の割合              | 留学生数(前年度)/全学生数(前年度)   |

### 各指標ごとの平均値と標準偏差

|      | 指標5   | 指標6   | 指標7   |
|------|-------|-------|-------|
| 平均値  | 43.4% | 6.4%  | 2.8%  |
| 標準偏差 | 0.019 | 0.006 | 0.007 |

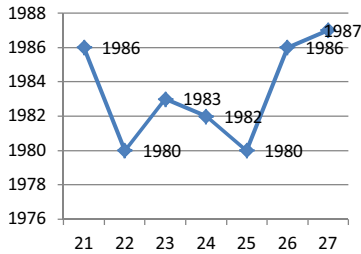
| 大学名 | 学部名 | 学生数<br>① | 女性学生数<br>② | 社会人学生数<br>③ | 留学生数<br>④ | 女性学生の割合<br>②÷① | 社会人学生の割合<br>③÷① | 留学生の割合<br>④÷① |
|-----|-----|----------|------------|-------------|-----------|----------------|-----------------|---------------|
| あ   | A   | 1986     | 800        | 100         | 30        | 40.3%          | 5.0%            | 1.5%          |
|     | B   | 1980     | 866        | 111         | 32        | 43.7%          | 5.6%            | 1.6%          |
|     | C   | 1983     | 870        | 115         | 32        | 43.9%          | 5.8%            | 1.6%          |
| い   | D   | 1982     | 875        | 120         | 35        | 44.1%          | 6.1%            | 1.8%          |
|     | E   | 1980     | 880        | 121         | 60        | 44.4%          | 6.1%            | 3.0%          |
|     | F   | 1986     | 850        | 125         | 55        | 42.8%          | 6.3%            | 2.8%          |
| え   | G   | 1987     | 834        | 130         | 60        | 42.0%          | 6.5%            | 3.0%          |
|     | H   | 1988     | 840        | 119         | 61        | 42.3%          | 6.0%            | 3.1%          |
|     | I   | 1989     | 880        | 132         | 62        | 44.2%          | 6.6%            | 3.1%          |
| え   | J   | 1990     | 870        | 133         | 50        | 43.7%          | 6.7%            | 2.5%          |
|     | K   | 1991     | 850        | 135         | 64        | 42.7%          | 6.8%            | 3.2%          |
|     | L   | 1992     | 830        | 121         | 65        | 41.7%          | 6.1%            | 3.3%          |
| お   | M   | 1993     | 840        | 136         | 50        | 42.1%          | 6.8%            | 2.5%          |
|     | N   | 1994     | 909        | 125         | 67        | 45.6%          | 6.3%            | 3.4%          |
|     | O   | 1995     | 800        | 138         | 68        | 40.1%          | 6.9%            | 3.4%          |
| か   | A   | 1996     | 911        | 120         | 45        | 45.6%          | 6.0%            | 2.3%          |
|     | B   | 1997     | 812        | 121         | 40        | 40.7%          | 6.1%            | 2.0%          |
|     | C   | 1998     | 913        | 141         | 45        | 45.7%          | 7.1%            | 2.3%          |
| き   | D   | 1999     | 802        | 142         | 60        | 40.1%          | 7.1%            | 3.0%          |
|     | E   | 2000     | 870        | 120         | 55        | 43.5%          | 6.0%            | 2.8%          |
|     | F   | 2001     | 916        | 144         | 50        | 45.8%          | 7.2%            | 2.5%          |
| く   | G   | 2002     | 917        | 120         | 75        | 45.8%          | 6.0%            | 3.7%          |
|     | H   | 2003     | 862        | 146         | 47        | 43.0%          | 7.3%            | 2.3%          |
|     | I   | 2004     | 919        | 135         | 50        | 45.9%          | 6.7%            | 2.5%          |
| け   | J   | 2005     | 870        | 119         | 49        | 43.4%          | 5.9%            | 2.4%          |
|     | K   | 2006     | 921        | 149         | 79        | 45.9%          | 7.4%            | 3.9%          |
|     | L   | 2007     | 867        | 150         | 80        | 43.2%          | 7.5%            | 4.0%          |
| こ   | M   | 2008     | 844        | 110         | 48        | 42.0%          | 5.5%            | 2.4%          |
|     | N   | 2009     | 820        | 118         | 82        | 40.8%          | 5.9%            | 4.1%          |
|     | O   | 2010     | 925        | 153         | 52        | 46.0%          | 7.6%            | 2.6%          |

# 1. 学生入学・在籍状況データ

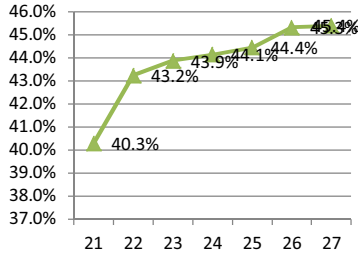
大学名・学部名 A大学 A学部

課程区分 学士課程

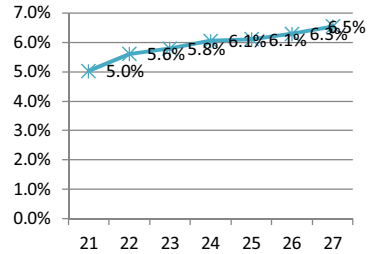
学生数



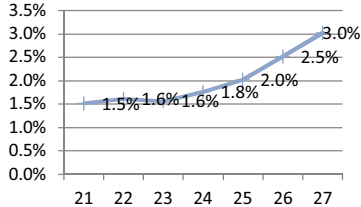
指標5: 女性学生の割合



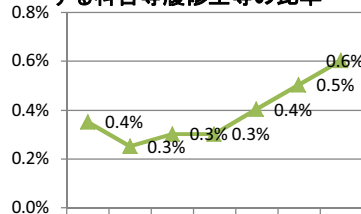
指標6: 社会人学生の割合



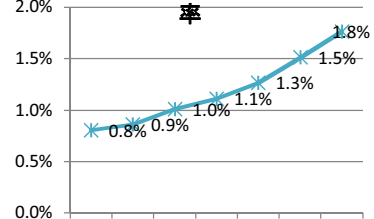
指標7: 留学生の割合



指標21: 正規課程学生に対する科目等履修生等の比率

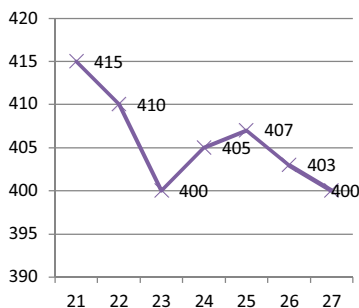


指標23: 在学生の海外派遣率

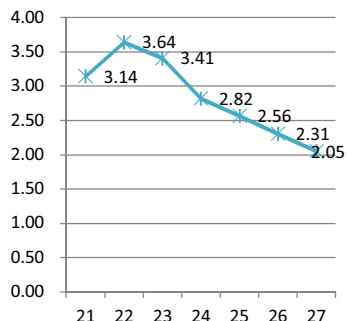


| 年度 | 指標5      |            |                | 指標6         |                 | 指標7       |               | 指標21         |                         | 指標23         |                  |
|----|----------|------------|----------------|-------------|-----------------|-----------|---------------|--------------|-------------------------|--------------|------------------|
|    | 学生数<br>① | 女性学生数<br>② | 女性学生の割合<br>②÷① | 社会人学生数<br>③ | 社会人学生の割合<br>③÷① | 留学生数<br>④ | 留学生の割合<br>④÷① | 科目等履修生数<br>⑤ | 正規課程学生に対する科目等履修生<br>⑤÷① | 海外派遣学生数<br>⑥ | 在学生の海外派遣率<br>⑥÷① |
| 21 | 1986     | 800        | 40.3%          | 100         | 5.0%            | 30        | 1.5%          | 7            | 0.4%                    | 16           | 0.8%             |
| 22 | 1980     | 856        | 43.2%          | 111         | 5.6%            | 32        | 1.6%          | 5            | 0.3%                    | 17           | 0.9%             |
| 23 | 1983     | 870        | 43.9%          | 115         | 5.8%            | 31        | 1.6%          | 6            | 0.3%                    | 20           | 1.0%             |
| 24 | 1982     | 875        | 44.1%          | 120         | 6.1%            | 35        | 1.8%          | 6            | 0.3%                    | 22           | 1.1%             |
| 25 | 1980     | 880        | 44.4%          | 121         | 6.1%            | 40        | 2.0%          | 8            | 0.4%                    | 25           | 1.3%             |
| 26 | 1986     | 900        | 45.3%          | 125         | 6.3%            | 50        | 2.5%          | 10           | 0.5%                    | 30           | 1.5%             |
| 27 | 1987     | 902        | 45.4%          | 130         | 6.5%            | 60        | 3.0%          | 12           | 0.6%                    | 35           | 1.8%             |

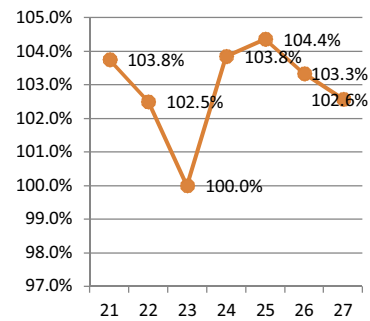
入学者数



指標4: 受験者倍率



指標3: 入学定員充足率



| 年度 | 指標4       |           |           | 指標3       |              |                |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|----------------|
|    | 入学定員<br>① | 募集人数<br>② | 受験者数<br>③ | 入学者数<br>④ | 受験者倍率<br>③÷② | 入学定員充足率<br>④÷① |
| 21 | 400       | 400       | 1256      | 415       | 3.14         | 103.8%         |
| 22 | 400       | 400       | 1456      | 410       | 3.64         | 102.5%         |
| 23 | 400       | 390       | 1330      | 400       | 3.41         | 100.0%         |
| 24 | 390       | 390       | 1100      | 405       | 2.82         | 103.8%         |
| 25 | 390       | 390       | 1000      | 407       | 2.56         | 104.4%         |
| 26 | 390       | 390       | 900       | 403       | 2.31         | 103.3%         |
| 27 | 390       | 390       | 800       | 400       | 2.05         | 102.6%         |

## 認証評価の国立大学法人評価における活用例

認証評価の国立大学法人評価への活用方法としては、例えば以下のようなものが考えられる。

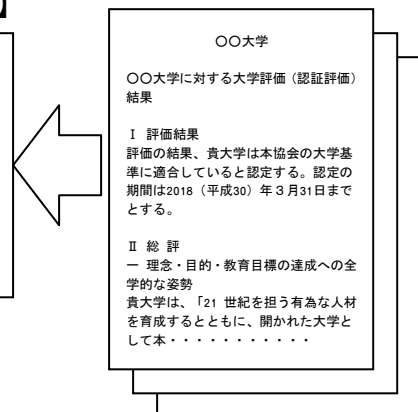
### (1) 認証評価結果を国立大学法人評価のエビデンスとして活用

法人が、機関別認証評価(並びに専門分野別認証評価)の結果を、国立大学法人評価の際にエビデンスとして、活用する。

例えば、認証評価結果の指摘事項として記載されている事項について、法人は、それらと関係のある中期目標の達成状況評価のエビデンスとして取り上げることが考えられる。

#### 【中期目標の達成状況報告書への記載イメージ】

平成〇〇年度に単位互換を視野に入れた〇〇市内3大学共通の遠隔授業システムを開発し、模擬授業と特別講演の中継を行った。……更に、県南部の本学〇〇キャンパス(平成〇年度設置)にも配置、今後、遠隔地の高校生も配信授業が聴講できる体制を整備し、高大連携の促進を図った。(認証評価結果 P〇〇参照)



### (2) 認証評価の提出資料の活用

機関別認証評価(並びに専門分野別認証評価)の提出資料を国立大学法人評価の提出資料とする。

資料を転載または、共通化することにより、法人における提出資料の作成の負担が軽減される。

#### 【例: 単位互換協定に基づく単位認定の状況】

表3-5 単位互換協定に基づく単位認定の状況及び単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況(前年度実績)

| 学部・学科 | 単位互換協定に基づくもの |          |          |          |          | 単位互換協定以外のもの         |         |           |      |                     |
|-------|--------------|----------|----------|----------|----------|---------------------|---------|-----------|------|---------------------|
|       | 認定者数(a)      | 他大学      |          | 短期大学     |          | 1人当たり平均認定単位数(b+c)/a | 認定者数(d) | 大学・短大・高専等 |      | 1人当たり平均認定単位数(e+f)/d |
|       |              | 認定単位数(b) | 認定単位数(c) | 認定単位数(e) | 認定単位数(f) |                     |         |           |      |                     |
| 〇〇学部  | 〇〇学科         | 専門科目     | 専門以外     | 専門科目     | 専門以外     |                     | 専門科目    | 専門以外      | 専門科目 | 専門以外                |
| 〇〇学部計 |              |          |          |          |          |                     |         |           |      |                     |
| 〇〇学部  | 〇〇学科         |          |          |          |          |                     |         |           |      |                     |
| 〇〇学部計 |              |          |          |          |          |                     |         |           |      |                     |
| 合計    |              |          |          |          |          |                     |         |           |      |                     |

### (3) 認証評価結果を提出資料として活用

機関別認証評価(並びに専門分野別認証評価)の評価結果について、国立大学法人評価の提出資料として依頼し、指摘事項などについて、参考に評価を実施する。

#### 【例:評価結果の抜粋】

##### (2) 教育方法等

###### 全学部

入学時から高学年にいたるまで、オリエンテーションを通じて履修指導がきめ細かく行われており、各学部・学科の教育目標、到達目標およびそれを達成するための「くさび型カリキュラム」を学生に徹底させるための努力が継続的に行われている。

シラバスは一定の書式で作成されているが、各回の授業内容に関しては教員間で記述の内容や量などに精粗があり、改善が望まれる。また、1年間に履修登録できる単位数の上限などについては設定されていないので、あわせて改善が望まれる。

### (4) その他

## 第2期中期目標期間評価における質の向上度の判定方法イメージ

